

医療心理学研究

[研究] 第1・2学年 選択 2単位

《担当者名》本谷 亮 (motoyan@hoku-iryu-u.ac.jp)

【概要】

医療技術の進歩は目覚ましい。医療心理学領域においても、日々、重要な知見が提唱されている。また、同時に医療心理学領域では、治療メカニズムの精緻化、プログラムの改善、研究成果の臨床応用、機能的な連携などにおいて、検討すべき課題が山積しており、臨床、研究の両面からの解決が求められている。本科目では、医療心理学に関連する国内外の主要文献、および臨床例などをもとに、最新の知見を幅広く身につけ、臨床現場での有益な実践、社会的インパクトの大きい研究プロダクトの作成が可能となる知識や技術の修得を目指す。

【学修目標】

医療心理学領域での最新動向を理解し、検討課題とその解決方法について理解する。

機能的なチーム医療、多職種連携について、本邦が抱える制度上の問題もふまえて、機能的なあり方と臨床応用可能性を理解する。

慢性疾患、難治性疾患について、医療心理学的観点からの支援の実際、課題、展望を理解する。

医療心理学領域で解決すべき適切な課題を選択し、探求できる。

有効な研究成果公表のあり方と教育体制の整備を理解する

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～3	医療心理学領域の最新の動向	主要文献を概観し、医療心理学領域での最新動向を理解し、検討課題とその解決方法について学ぶ。	本谷 亮
4～6	チーム医療、多職種連携	機能的なチーム医療、多職種連携について、本邦が抱える制度上の問題もふまえて、臨床例を交えて、機能的なあり方と臨床応用可能性を学ぶ。	本谷 亮
7～9	慢性疾患に対する応用	慢性疾患、難治性疾患をとりあげ医療心理学的観点から支援の実際、課題、展望について臨床例を交え学ぶ。	本谷 亮
10～12	課題探求	医療心理学領域で解決すべき課題を最新の主要文献から選択し、その内容について調べるとともに、発表する。また、その内容に関するディスカッションを通し、今後取り組むべき方策について学び、検討する。	本谷 亮
13～15	有効な成果公表と教育体制の整備	これまでに修得してきた知見や技術をいかに国民や専門家に公表できるか、その有効な方法や可能性について学ぶ。また、研究成果を臨床現場へ還元する際の効果的な教育体制、方法について学ぶ。	本谷 亮

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

課題や事前学習への取り組み姿勢、および講義内のディスカッション・質疑応答に基づく総合評価

【教科書】

使用しない

【参考書】

授業内で適宜指示する

【学修の準備】

- ・ 配布資料や主要文献を精読し、自身の考えをまとめてくる。
- ・ 最新の主要論文を検索し、その内容をまとめる。
- ・ 本邦の医療システム、および医療心理学領域に関連する制度について調べる。

【各回の授業前後（予復習）で最低各2時間】

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2 心理学領域において自立した研究者として必要な研究能力を有している。

DP3 先端的な専門知識および技能を修得し、学術研究を開拓的に前進させる能力を有している。

上記、心理科学研究科臨床心理学専攻（博士課程）ディプロマ・ポリシーに適合している。

【ICTの活用】

学習教材（授業資料）の配信や学習課題の提示ではGoogle Classroomを利用する。また、講義内容によっては、一部をオンライン（zoom）を用いる場合がある。詳細は、講義内で説明する。

【実務経験】

公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

医療領域における専門職としての実務経験を活かし、臨床現場の実情に即した実践的知識・技術の獲得ができるよう講義を展開する。